



**赤ちゃん研究の新しい形**

同志社大学赤ちゃん学研究中心  
板倉昭二

1

自己紹介

同志社大学 赤ちゃん学研究中心 センター長/専任フェロー (教授)  
京都大学 名誉教授  
中国・浙江師範大学、浙江理工大学 イタリア・ミラノカトリック大学 客員教授  
日本赤ちゃん学会理事長

1959年 大分県生まれ。専門は発達科学、進化発達心理学、Developmental Cybernetics。  
1989年 京都大学大学院理学研究科霊長類学専攻 修了。京都大学理学博士。  
1989年～1991年 日本学術振興会特別研究員 (PD)、この間、米国ニュージャージー医科大学ロバートウッドジョンソン校児童発達研究所留学後、大分県立芸術文化短期大学、米国エモリー大学ヤーキース霊長類センター研究員、大分県立看護科学大学を経て、2000年より、京都大学大学院文学研究科助教授、2006年より同准教授、2010年、同教授となる。  
2019年4月 京都大学を早期退職し、現職となる。

2

人間理解のために: 3つの視点

Developmental Science・Developmental Cybernetics

Robotics/AI/VR  
perspective (ロボティクス・AI・VR視点)



Humanoid robot・Android  
ATR, Osaka Univ., Ishiguro Lab.



Evolutionary perspective  
(系統発生的視点)



Nonhuman primates

Developmental perspective  
(個体発生的視点)



Human infant/child

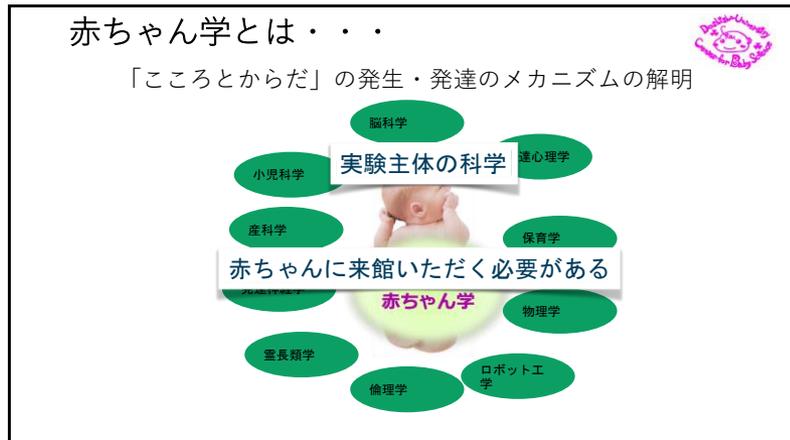
社会的認知・社会的知性・we-mode・エージェントの理解

3

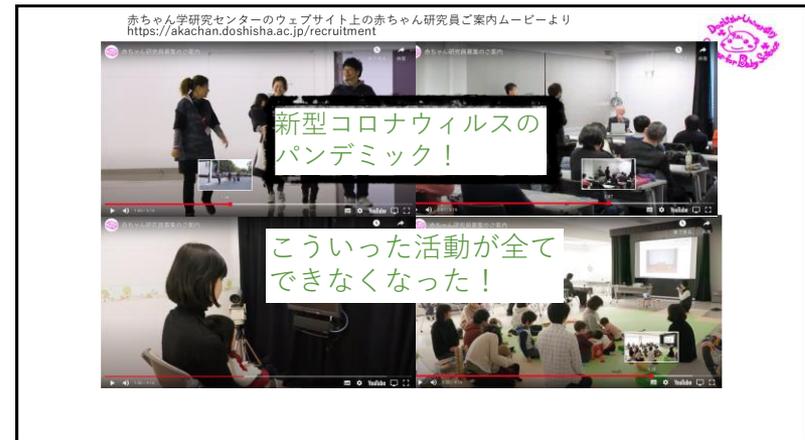
同志社大学赤ちゃん学研究中心  
文科省より 赤ちゃん学研究共同利用・共同研究拠点に認定

センター紹介ビデオ

4



5



6

2020年度の来館調査は…

- 2020.03 - 2020.07 全面的中止
- 2020.08 - 現在 マニュアル策定, 部分的開始

- 大学ルールよりも厳しく
  - 消毒、換気、同居者も含めた体調確認
  - 参加者・外部研究者・スタッフも同等
  - 参加者の方の公共の交通機関による来館はご遠慮いただく

参加者減は避けられず…

7

乳幼児を対象とする  
オンライン研究環境の開発へ

非接触での調査を可能にし、

全国共通の参加者プールに一元化することで、リクルートコスト↓、大規模研究・縦断研究・共同研究のしやすさ↑

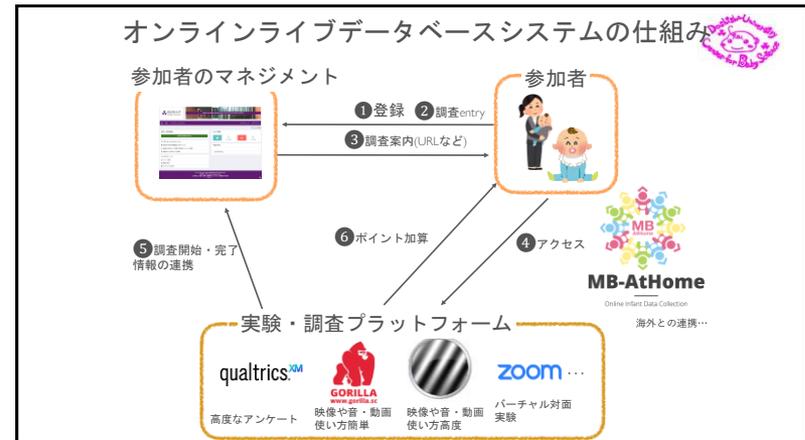
関連学会と連携して進行中 (日本赤ちゃん学会など)

8

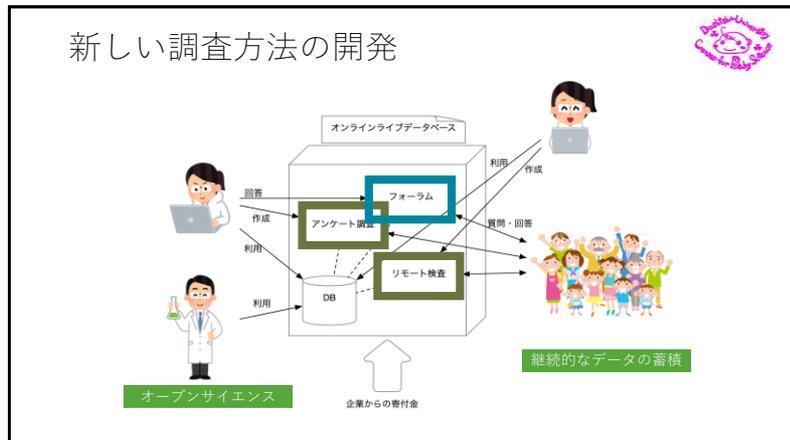
## オンラインでの研究環境の開発

- オンラインライブデータベースシステム

9



10



11

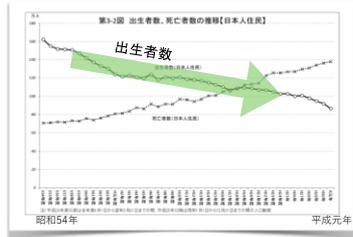
## 地域との連携

- 精華町 京都大学COI(2020～)  
子育てAI サテライトセンター
- 木津川市エコチル調査支援協議会の設置(2010～)  
環境省子どもの健康と環境に関する全国調査(2010～)
- 木津川市子どもの睡眠リズム改善プロジェクト(2017～2019)  
JST けいはんなリサーチコンプレックス(2017-2019)

12

## 展望

- 人口減問題の解決？
- 参加者バイアスの低減
- 異分野・若手研究者支援



オープンサイエンスによる研究領域の拡大と加速

13

資料提供 同志社大学赤ちゃん学研究センター・准教授・加藤正晴

14